

セルビア修道院壁画修復プロジェクトの概要報告

2021/11

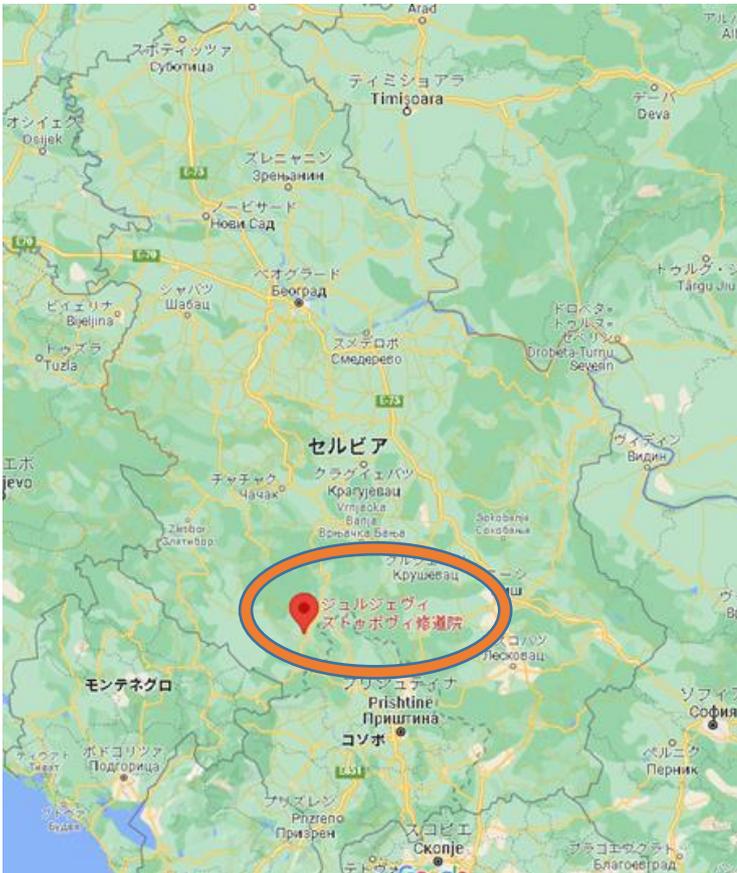
在大阪セルビア名誉総領事館

1.修復の概要

- 事業対象の名称(写真①)
ジュルジェヴィ・ストゥポヴィ修道院 ドラグティン王礼拝堂内フレスコ画
- 所在場所(地図 A・B)
セルビア共和国ノヴィ・パザル近郊 ジュルジェヴィ・ストゥポヴィ
- 修復実施者(業者)名
保存修復工房レスコン 代表：ドラガン・スタノイエヴィッチ
- 責任者
セルビア共和国文化遺産保護研究所
嶋田紗千 実践女子大学非常勤講師（日本側の協力者）



写真① 出典：(C) Slobodan Palma Botoski



地図 A：セルビア内の所在地



地図 B：ノヴィ・パザル内の所在地

2. 修道院の現状

【損傷要因】

- (1) 風化（水分、霜、塩分、様々な微生物）：壁画表面の塩分結晶化、剥離・亀裂
- (2) 戦争による破壊：壁画の剥落
- (3) 平常時における故意的な破損：個人の名前を書く、ひっかき傷
- (4) 長年の使用による劣化：蝋燭の煙による煤や埃、他の粒子の堆積

3. 修復の意義と目的(出典：嶋田様作成のプロジェクト概要より抜粋)

中世時代の首都ラスに位置するジュルジェヴィ・ストゥポヴィ修道院は、中世セルビア王国ネマニチ朝の創始者ステファン・ネマニャ（1113-1200）が建てた、セルビアを代表する修道院の一つである。12-13世紀の貴重な文化遺産が集中して残るこの地域は、1979年に世界遺産「スタラ・ラスとソポチャニ修道院」として認定された。しかし、フレスコ画の修復処置を長期に渡って要求してきたが、自国では費用を捻出できず、支援が必要とされた。

今回の修復の目的は、描かれた場面を鮮明にしつつ、今後数十年に渡り、フレスコ画をよりよい状態で維持することである。

4. 作業期間

開始：2021年9月6日頃

終了：2021年10月31日頃

5.修復の工程

- A) 壁面の漆喰の安定化：基盤の漆喰における固定、保壁の固定
- B) 壁画塗装された表面の固定
- C) 破損部分周辺の固定
- D) 壁画の洗浄：フレスコ画の表面に堆積した粒子の除去
- E) 基層からの塩の抽出（セルロースの圧縮による漆喰からの塩分抽出）
- F) すべての損傷部分（穴、亀裂など）の穴埋め
- G) 穴埋めした部分を周りの色調になじませる（再塗装）
- H) 壁画部分を鮮明にするための損傷軽減措置

日程	実施概要	場所
事前準備	人員手配、宿予約、足場の調達・輸送、その他の機材の準備	事務所
第1週	足場の設置	現場
第2週		現場
第3週		現場
第4週		現場
第5週		現場
第6週		現場
第7週		現場
第8週		現場
事後作業	報告書の作成、出版印刷等	事務所

6.修復の光景





(B) 壁画塗装された表面の固定



(C) 破損部分周辺の固定





(F) 全ての損傷部分の穴埋め



(G) 穴埋め部分の再塗装



(H) 壁画の鮮明化 (損傷軽減措置)

修復前 (2021年9月7日撮影)

修復後 (2021年11月2日: 鳴田撮影)

※修復前後の写真は、撮影器具、照明器具の関係で照度が異なります



